



志岐小通信 麩泉の風

校訓「かしこく」「やさしく」「たくましく」

令和4年度 9月16日 第5号 文責：栗原 克浩

2学期がスタート！ ～成果を生む～



42日間の夏休みを計画的に生活することを通して、児童にはきっと自立の心が育ったものと期待します。

さて、1年間の教育活動において2学期はどんな意味があるのでしょうか。「花づくり」に例えると、1学期は種をまき苗ができます。2学期は茎が伸び葉が茂り花が咲きます。つまり、「基盤づくり」の1学期、「成果を生む」2学期です。

そこで、2学期の核となる取組「4つのプロジェクト」を紹介します。夏休みに1学期の教育評価をもとに職員間で協議し決定しました。この内容については、2学期の始業式で、各プロジェクトの職員が児童に説明しました。

4つのプロジェクト ～身に付けさせたい力の育成～

【豊かな心の育成】優プロジェクト	【確かな学力の育成】賢プロジェクト
①あいさつ →名前を付けたあいさつ 登校班でのあいさつ ②はき物並べ →靴箱・トイレ ③廊下歩行 →右側歩行等	①授業の話し合い →出し合いから学び合いへ ②タブレット活用 →さわる・慣れる ③学力検査対策 →目標を持ち、成果を出す
【たくましい心身の育成】逞プロジェクト	【望ましい環境づくり】絆プロジェクト
①「身体を動かそう」 →柔軟性を伸ばす ②「自分を守ろう」 →基本的感染対策の徹底 ③「よく食べよう」 →好き嫌いなく食べて元気に	①SDGs →持続可能な地球・社会となるため自分にできることを行う ②一人一鉢運動 →卒業式に向けた花づくり

最後に「学びの自覚化」という点です。1学期末は、「自分が1学期にできるようになった事が何か分かる」児童が半数程度でした。2学期は、目標を持って取り組み「できることを増やす」と共に、「できるようになったことが自分で分かる」ことができるよう「学びの自覚化」に取り組みます。

【学校教育目標】

「自分大好き、友だち大好き、志岐小大好きと
笑顔でいえる子どもを育てる」

～ふるさと『志岐』を愛し、地域に積極的に貢献する人材の育成～

この夏SDGsを実感 ～自分にできることを～

SDGs（持続可能な地球・社会を）という発想がなぜ生まれたのでしょうか。「人は地球上にこのままずっと住み続けられるのか」という危惧から出てきた考え方ではないでしょうか。

特に、環境変動においては、非常に大きな変化があります。日本の2倍の面積のパキスタンにおいて、洪水により国土の三分の一が冠水しました。これは、日本の国土の三分の二の面積に当たる広大な広さです。

ヨーロッパにおいて50年に一度の大干ばつが起きました。これらの真反対のことが、この夏のほぼ同時期に、同じ地球上で起きました。昔、台風は960hpa位でも相当に強いと感じていましたが、9月の台風11号は930hpaでした。進路がそれて甚大な被害にはいたりませんでした。仮に直撃していたらと思うと恐ろしくなります。

環境保全は、とてつもなく大きな問題であり、たった一人の力は微力です。だから、何もやらないのではなく、地球上に住む一人一人の人間が「自分のできることをやる」事が重要だと思います。学校においては、環境保持

のための行動化に向けた取組を、2学期に重点的に行います。



不審者対応避難訓練～危険察知能力を～



学校への不審者侵入を想定した避難訓練を実施しました。真剣な態度で避難のルールを守り

短時間で避難できました。一方、「一見不審者に見えない不審者が、児童一人の時に巧みな言葉で誘う。」これが、日常生活での不審者事案の恐ろしい手口です。日頃より、不審者対応について話をして、児童の危険察知能力を高められるよう、ご家庭においてもよろしくお願ひします。

【10月の行事予定】

1	土	
2	日	
3	月	読み聞かせ・歴史講話
4	火	クラブ活動
5	水	陸上記録会（5・6年）
6	木	
7	金	
8	土	
9	日	
10	月	スポーツの日
11	火	就学時健診 漢計週間 毛筆指導（5年） 振替休業日（6年のみ） 毛筆指導（6年）
12	水	
13	木	
14	金	修学旅行（6年）
15	土	修学旅行（6年）
16	日	
17	月	読聞かせ（全学年）
18	火	
19	水	
20	木	認知症サポーター養成講座（3年）
21	金	英語授業づくりプロジェクト
22	土	
23	日	
24	月	毛筆指導（4年） 読聞かせ（1・2年）
25	火	毛筆指導（3年）
26	水	ふるさと探訪教室（5年）
27	木	支援学校交流学習（4年）
28	金	
29	土	
30	日	
31	月	